

Q & A US Soccer

アメリカサッカーのマメ知識

日本ではなかなか情報が入ってこないため、理解するのはもちろん、興味も薄くなってしまつてアメリカのMLS。そこでこのコーナーでMLSについての基礎知識をつけて、サッカー新大陸の素顔に興味を持ってみてはいかがでしょうか？

Special Thanks : Kazuo Maes

Q MLSはどのようなレギュレーションで行われているのでしょうか？よく分からないので教えてください。

A メジャーリーグ・サッカーの大会方式は、ヨーロッパ(主要国や日本などは少し異なっています。まず、リーグ所属チームは去年からレアル・ソルトレイクとチームUSAが加わったため、全12チームで構成されていますが、その12チームは6チームずつ東西それぞれのカンファレンスに分けられています。

試合方式は、同じカンファレンス内のホーム&アウェイが1カード4試合、東西の交流戦がそれぞれ1カード2試合、計32試合のリーグ戦(レギュラーシーズン)を戦います。そのリーグ戦で、東西カンファレンスの1位チーム、そしてそれ以外の上位(勝ち点)6チームの計8チームで、リーグ戦終了後に決勝トーナメント制による「MLSカップ」を行い、シーズン王者を決定します。MLSカップもホ-



ム&アウェイ方式ですが、決勝戦だけは中立地での一発勝負となります。

ちなみに、2005年のMLSカップ決勝戦は、テキ

サスのピザ・ハット・パークで開催され、LAギャラクシーがニューイングランド・レヴォリューションを下して優勝カップを手に入れています。

Q MLSには日本にもよく知られているスター選手は誰がプレーしているのでしょうか？昔、コロンビアのワルデラマなどがいたと思いますが。

A かつては、コロンビアのワルデラマ、メキシコのカンボス、ボリビアのエヘバ、イタリアのドナドニやセゼンガ、ブルガリアのストイチコフなど、世界的にも名の知れたスター選手がプレーしていたこともありましたが、開幕当初の状況と比べると、最近では自国の選手が主軸となっている傾向があります。

それでも、現在も経験豊富なスター選手は何人がプレーしています。その代表格が元フランス代表のユーリ・ジョルカエフ(ニューヨーク)です。その他、スペイン代表のカランカ(コロラド)、あるいはメキシコ代表のレンチア(チームUSA)などは、MLSの中でもやはり注目を集めている人気選手となります。



オールスターにも出場したレッドブルのジョルカエフ。

Q MLSでプレーしている選手の年俸は平均してどれくらいでしょうか？アメリカというと、野球のように高いイメージがあります。

A リーグ全体で200万ドル(約2億3千万円)という予算を用意していますが、チームによって違いがあり、平均年俸を出すのは難しいところです。また、新人で2万ドルから4万ドル(約230万円~460万円)程度、最高額は28万ドル(約3200万円)と規定されています。ただし、各チーム1人ずつ例外的な選手が認められておくと、たとえばド・ヴアン(LAギャラクシー)はスポンサー契約やボーナスを加味すると、推定90万ドル(約1億400万円)に達し、同じアドゥ(DCニューイット)も、パレンシア(チームUSA)も100万ドルを超える収入と言われています。いずれにしても、人気スポーツ、野球やバスケットと比べると、小額に甘んじているのが現状です。

Q MLSには下部リーグはあるのでしょうか？またあるとしたら、昇格や降格などどのようなシステムですか？

A 現在12チームで構成されているMLSは、完全に独立単体のリーグですので、私たちがよく知っているヨーロッパの各国のリーグや日本のリーグのように、1部、2部といったピラミッド型のリーグ組織になっていません。つまり、現在リーグに所属する12チームは、どんなに成績が悪くても降格することはないのです。よって、当然ですが、入れ替え戦は存在しません。

ただ、これはあくまでも現段階のことだと考えただろうがいかも知れません。リーグでも開幕当初下部リーグはありませんでしたが、1999年になって初めて2部リーグ(U2)ができ、1部と2部の入れ替え戦を行うようになったことを考えると、MLSも将来的には下部リーグを組織することは十分に考えられます。

USLの組織ピラミッド図



USL(ユナイテッドサッカーリーグ)は入れ替え戦はないが、ディビジョン1、2、そして3部に相当するPDLが存在する。

実は、アメリカにはMLSとは別に、もう20年目を迎えるというUSL(ユナイテッド・サッカー・リーグ)というリーグ組織が存在します。これは、アメリカサッカー連盟が管轄しているリーグで、開幕は1986年、その起源はサウスウェスト・インドアン・サッカー・リーグにあります。

その後、組織形態が何度も変わり、現在はプロリーグでもあるディビジョン1、セミプロのディビジョン2、アマチュアのPDL(プレミア・ディベロップメント・リーグ)がピラミッド型で存在しています(ただし、入れ替え戦は存在しない)。その他にもWリーグ(女子)や、年代別のスーパー20リーグ、スーパーYリーグも運営しています。

アメリカサッカー界では、基本的にMLSをトップとし、2部リーグをUSLの1部、以下3部をUSL2部、4部をPDLと区分けしているようです。よって、将来的にMLSがUSLとドッキングすることも十分に考えられるというわけです。

Q MLSでは移籍が頻密に行われるというイメージがあります。ヨーロッパのような移籍期限などはあるのでしょうか？

A リーグ創設時からMLSは一つの会社組織、各チームは部署という認識があるため、確かに選手の移動は多いです。移籍は各チームが最終決定権を持っていますが、命令しているのはリーグになります。これは、有望選手が少なくなり、成績にせよ財政面にも、苦しくなるチームが出てくるからです。それで、状況によってこのトレードはウチにとって好ましいものではないと不満を出す監督、コーチは後を絶たないというのが実情です。他国と異なり、リーグ内の移籍にはトレードマネーは発生しません。逆に国外リーグからの移籍には移籍金が発生します。シーズン開幕後の移籍は自由ですが、FIFA規定により、8月末をもって、その年のリミットとしています。

Q 開幕当初のMLSでは、確かに引き分けのときにPKではなくシュートアウトというルールを採用していましたが、他にも変わったルールはありますか？

A 開幕から採用されていた引き分けの際の「シュートアウト」はすっかり有名になりましたが、このルールも1999年シーズンを最後に廃止されています。また、2003年からはプレーオフで第3戦を戦うこともなくなったことで、現在のMLSは、ほぼ国際ルールに則ったレギュレーションが採用されていると言えるでしょう。これも、リーグも開幕当初はサドンデス方式を採用していたように、国民に分かりやすくエキサイティングなゲーム展開にするために採用されていた、初期段階のルールと考えると良いでしょう。

また、優勝決定方式についても、東西カンファレンスのレギュラーシーズン、MLSカップを行い、以前より分かりやすくなっています。

Q 一般的に各チームのユニフォームには胸の部分などにスポンサーのロゴが入っていますが、MLSでは見当たりませんか？どうしてなのでしょう？

A MLSのユニフォームを見てお気づきの点も多いと思いますが、MLSでは各チームのユニフォームに独自のスポンサーが入ることはありません。これは、MLSの規定として、スポンサーとの契約はすべて一括でMLSが契約を結んでいるからです。そしてそのスポンサー収入は、プールされた上で、各チームに均等に分配することになっています。

ただ、今シーズンからニューヨークのオーナーが飲料メーカーの「レッドブル」となったため、ニューヨークのユニフォームには、レッドブルというロゴが入っています。因にこれはチーム名でもあるので、正確には、それでニューヨークにスポンサー料が入るということはありません。

Q MLSでは、新人選手の獲得の際、野球のようにドラフト制度を採用していると聞きました。詳しく教えてください。

A MLSでは、毎年1月に開催される「スーパー・ドラフト」を行い、新人選手の入団が決まります。チームを自由契約になった選手や17歳、18歳の高年プレーヤーも対象となりますが、基本的にはほとんどが大学の選手が指名されています。指名順位は、前年の成績が下位のチームから優先されるのは野球と同様です。近年の傾向は、FWよりもむしろDF、GKが上位指名されるケースが多くなっています。大学出身者以外では、「ナイキプロジェクト40(現在はアメリカン・ジュネレーションに改名)」という新人養成プログラムが幅を利かせていますが、現在はリザーブ・リーグ出身者が増えています。また、アメリカ以外の国にも門戸を開いているのも特徴の一つです。



2004年度ドラフト1位でDCニューイットに入ったアドゥ。

Q 日本ではあまりMLSをテレビで見ることが出来ませんが、W杯やワールドカップなど、現地ではどのような放送形態で試合が中継されているのでしょうか？

A リーグ初年度から開幕ゲーム1試合とMLSカップを4大ネットワークの一つABCが放送しています。発足当初はスポーツケーブル局のESPN2とスペイン語局のテレムンドが毎週放映していましたが、テレムンドが撤退し、ESPN2は「サッカー・サタデー」と題してその後積極的に中継しています。同局は一時「MLSエクストラ」という、その週のダイジェスト版もオンエアしていました。また、ローカル局も放映に参入し、ファンを増やしています。ちなみに、チームUSAは今シーズンのホーム16試合中14試合がテレビ放映され、アウェイ戦も16試合のうち13試合が放映される予定ですが、来季に関してはESPNとの契約はまだまわっていない模様です。